



子ども平和新聞

ピースアクションinヒロシマに参加したあと、ふりかえりをまとめよう。

日付: 2026.8.5日~7日

学年: 中学2年

名前: 稲葉 邦花



「あたり前の日常があることを大切にする！」



心に残ったこと



私は、同じ中学生の方たちが学校で多く亡くなったことを知り、自分がこの時代にも生きていたとしたら自分もここに名前が書いてあったかもしれないと思うと、とても身近に思うことができたし、胸がつぶれるような思いになりました。

また、袋町小学校では、原爆で生き残った人々が家族に助けを求めるようなメッセージがたくさん残されており、原爆で亡くなっても生き残っても

つらい思いをするのはとても悲惨なものだと感じました。



平和について考えたこと



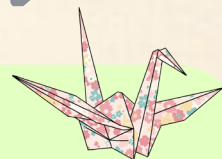
私が生まれてきた時代にはもう戦争と言うものはなく、このような悲惨なものは体験したことはありませんが、戦争はたくさんの人の命を奪うものであり、誰も得をしないような人々の悲しみや苦しみだけが残るので、誰もが健全な心を持ち、少しずつでもこのような悲惨な体験を減らしていけるような平和な環境づくりが大切だと思います。もう体験者の言葉を聞くことができるのは最後の世代になると思いますが、原爆でたくさんの人が亡くなったという事実は変わらないので、後の世代にも伝え、戦争と平和について考え続ける必要があると思いました。



わたしの平和宣言

差別や偏見に流されないこと

今、自分たちが平和に生きていることがあたり前のことではないということを忘れずに相手の気持ちや考えを尊重することを大切にしたいと思います。





子ども平和新聞

ピースアクションinヒロシマに参加したあと、ふりかえりをまとめよう。

日付: 2026.8.5日~7日

学年: 中学1年

名前: 國井 美咲輝



原爆の恐ろしさや平和の尊さを風化させない



“

心に残ったこと



生命力の強さを伝える被爆樹木
一度、この木は黒焦げになりながらも根を張り、大きく葉を広げ、葉を茂らせ、生き生きと伸び続ける姿は「どんな困難の中でも命は繋がり、立ち上がる」という生命力を感じました。

”



“

平和について考えたこと



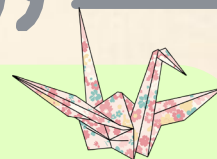
特に原爆ドームを目にした時、たったひとつの爆弾によって多くの尊い命が奪われたのだと実感しました。そして、平和な今を生きている私達に「二度とこのような悲劇を繰り返してはならない」という強いメッセージを放っているように思いました。

”



わたしの平和宣言

平和を繋いでいくために、人の痛みに耳を傾け、共に寄り添い、共に助けあう力が大切だとこの三日間でよく知ることができました。原爆や、平和の話を私達が次の世代に繋げるためにも家族や友達にこの話を伝えていきたいです。





子ども平和新聞

ピースアクションinヒロシマに参加したあと、ふりかえりをまとめよう。

日付: 2026.8.5日~7日

学年: 小学6年

名前: 和田 悠佑



家族がいることへの感謝、安全・安心な毎日への感謝を忘れてはいけない

“ 心に残ったこと ”



8月6日8時15分にたった1発の原子爆弾が放たれ、広島町、命、そして心も壊れていった。たった1発の原子爆弾が広島に住民だけでなく、捕虜までも殺してしまったことを知った。そこで僕が心に残った事は、二度と起こしてはいけない、過ちを絶対に忘れてはいけない。戦争は、絶対に起こしてはいけないということだった。さらに、パンフレットや動画で見て広島、長崎の原子爆弾のことを資料だけで理解するのではなく、実際に見に行ったり体験したりすることの大事さが分かった。



マルセル・ジュノー博士がたくさんの薬や医療の材料を届けてくれた。さらに、ノーマン・カズンズ氏が原始爆弾で親子を無くした人を精神的・経済的に援助した。ノーマン氏の言葉、「世界平和は努力しなければ達成できない、目標を明確に定め責任ある行動をとることこそ人類に課せられた責務である。」と刻まれている。

”



みんなの気持ちが強く表されている灯籠流し。ぼくは、「平和続行」「笑顔」という言葉を書いた。「二度と戦争を起こさないように」思いながら流した。

平和について考えたこと



1日目の「ピースアクションinヒロシマ」での紺野美沙子さんの朗読を聞いたり、絵画作品を見たりして、当時の様子を知りゾッとした。目が飛び出ている人、皮膚が剥けている人、死体が積み重なっている様子など想像以上だった。また、灯籠流しで平和の気持ち・心得を書き、灯籠流しの意味や大切さが分かった。広島の人々の気持ち、「戦争をなくす」「平和が続いてほしい」「笑顔を絶やさない」という思いをもった人が多くいて、原爆の恐ろしさを忘れずにいようという気持ちがあるのだと思った。



わたしの平和宣言

3つのことを忘れずに生活していく

- ・戦争や原爆を知る
- ・戦争を起こさない
- ・ケンカをしても暴力ではなく、話し合いをして仲直りをする



日付：2026年8月5日～7日

学年：小学4年生

名前：桑幡 朋治



広島原爆

スタディツアー記

桑幡朋治

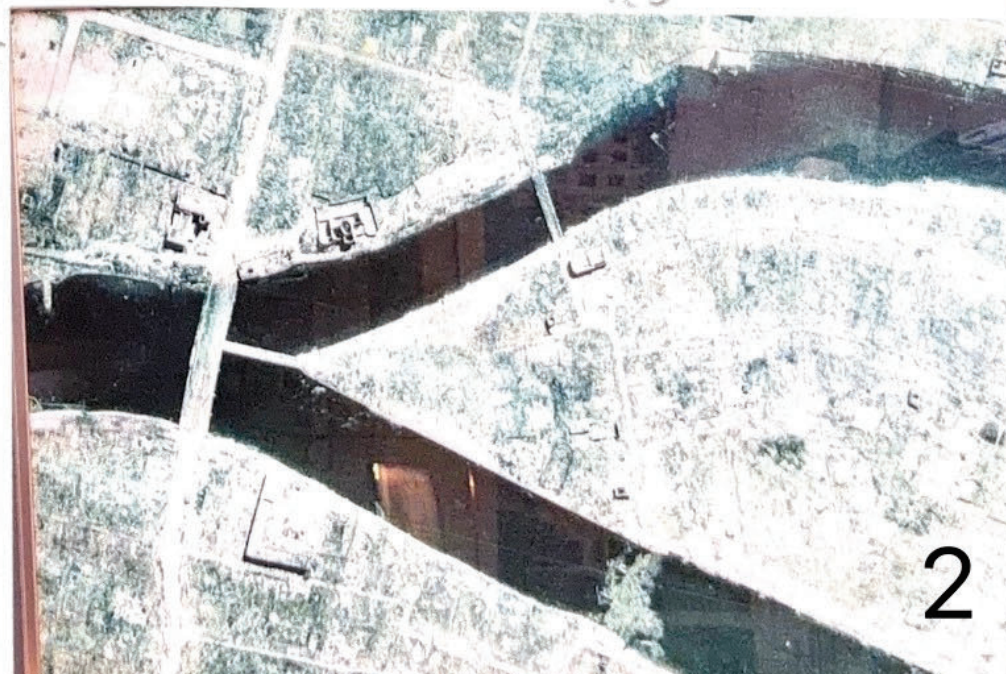
目もかけ
原爆についての恐ろしさなどを実感したことが
なく、原爆について何も知らなかったのでものこ
を自由研究にしようと思いました。

①原爆とは
原爆(原子爆弾)
とは、ウランとプ
ルトニウムの核分
裂反応を利用
した、きわめ
て強力な破
壊力を持つ
兵器です。

原爆投下前の様子



原爆投下後の様子



当時原爆は1945
年8月6日に落とされ
近くの建物で開
をしていた中学1
年生が亡くなり
ました。

③記録

～1日目～

被爆樹木

↓
袋町小学校
平和資料館

被爆樹木

被爆樹木とは、原爆が落とされた
地点の半径2km以内で被爆しながら生き残
つた木、再び芽を出した木のことをいいます。
被爆樹木は被爆してもうこの町はふっこうでい
いとおもわれかけていた人々に元気を分け与えて
くれました。



袋町小学校

袋町小学校とは、爆心地から約460mという非常に近い場所にある小学校で、被爆後救護所として使用されました。

そして私が袋町小学校で一番重要なことなのだが、壁に刻まれた、伝言です。昔は伝言を壁に書いていました。



～2日月～

平和祈念式典

↓

原爆ドーム

↓

禎子の像

↓

原爆爆心地



平和祈念式典
平和祈念式典とは、
原爆死没者をいれ
いし、世界恒久平
和を祈念する式典
のことです。
原爆投下時刻の8
時15分に黙とうが行
われ、市長による平
和宣言が世界に発
信されます。





原爆ドーム

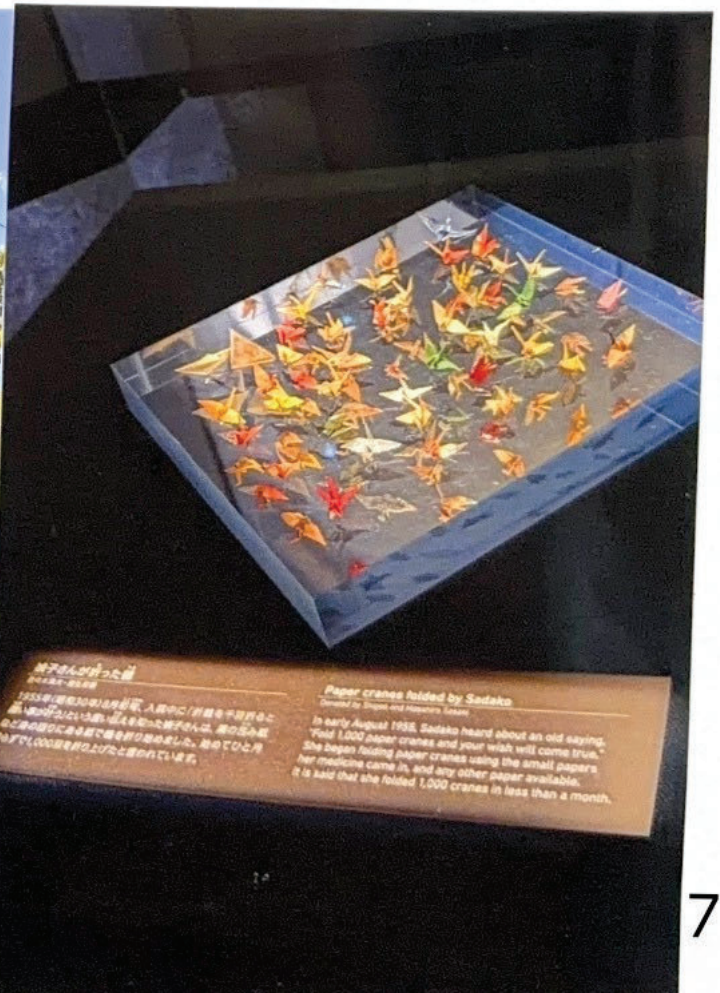
原爆ドームとは、もとは
広島産業奨励館といわれ
地上3階、地下1階のモダンな建
物でした。原爆投下により建
物は一瞬にして大破し、中に
いた人は全員死亡したと伝え
られています。
しかし、しびきまは真上からか
そいかかたため、建築物は
倒壊を免れ、ドーム部
分は象ちの白く残りました。



禎子の像

運動が得意で活発だった佐々禎子には被爆から10年後、12歳で発病しました。

「つるを折れば幸せは来る」と聞き、回復を願ってつるを折りつづけましたが、9ヶ月後帰郷の人に、この死をきっかけに、平和築くための像をつくらうということを始め、全国からのば金でこのイ象が完成しました。





爆心地

デニアン島から飛来した米軍機B-29「エノラ・ゲイ」によって人類史上最初に使用された原子爆弾は、この上空約600メートルで大きく爆しました。爆心直下となったこの一帯は、約3,000度〜4,000度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人びとが瞬時にその生命を奪われました。

時に1945(昭和20)年8月6日午後8時15分のことでした。

(爆心直下から約1.5kmの地点、1945年11月、米軍撮影)

Hypocenter

The first atomic bomb used in the history of humankind exploded approximately 600 meters above this spot, carried to Hiroshima from Tinian Island by the Enola Gay, a U.S. Army B-29 bomber. This area of the city was exposed to temperatures of approximately 3,000 to 4,000 °C, as well as a blast wind and radiation. Most people in the area lost their lives instantly. The time was 8:15 a.m., August 6, 1945.

(View of devastation looking north from hypocenter, November 1945. Photograph by U.S. Army)

原爆爆心地

1945年8月6日に原爆が空中爆発した中心地点のことです。半径500m以内では、強烈な熱線と爆風により、多くの人のつとに命が失われました。

～る日～
本川小学校
平和資料館

本川小学校

本川小学校とは、爆心地から約410mとい
う爆心地から近い場所にある、爆心
地に最も近い小学校です。
原爆により校舎が被災し、多くの児
童や教員が亡くなりましたが、奇跡的
に児童2名が生き残りました。



1928(昭和3)年7月、本川尋常高等小学校に、広島市内の公立小学校
は最初の鉄筋コンクリート造り3層建ての校舎が建設されました。
被爆により、この校舎は外壁のみを残して全壊し、児童約400名、教員
10余名の命が奪われました。奇跡的に生き残ったのは2人だけでした。残
りたれた残骸は、被爆翌日から、臨時救護所となりました。
外壁だけの校舎でしたが、被爆翌年の1946(昭和21)年2月から授業が
開されました。1988(昭和63)年に、被爆した校舎を撤去する際、一部を
取り、平和資料館として整備しました。

■所在地 中區本川町一丁目5番39号
■爆心地からの距離 410メートル
■建物の名称 本川国民学校
■構造・階数 鉄筋コンクリート造り3層建て、一部地下1階
■竣工時期 1928(昭和3)年
■竣工時の名称 本川尋常高等小学校
■現状 被爆した校舎の一部を平和資料館として保存し、利用

④感想

私は、今回のことを通して、原爆について、原爆の恐ろしさについて、正しいところから教えることがいい、と思ったので、学校などの道徳などの教科で平和教育として出題するのがいいと思いました。そして、原爆について詳しく知っている人は少ないと思うので、原爆の教育についても少し内容を詳しく、外国にも原爆の恐ろしさをもっと知ってもらい、原爆が世界でぜったい作られない平和な世界を実現したいと思いました。